

「佐渡」世界遺産先送り

20年度候補選定行わず

文化庁は29日、世界文化遺産登録の前提となる国内推薦候補の選定を2020年度は行わないと発表した。選定作業の前提となる国連教育科学文化機関（ユネスコ）の会合が新型コロナウイルスの影響で延期され、開催が見通せないた

め。20年度は佐渡市の佐渡金山を構成資産とする「佐渡島の金山」の選定が有力視されていたが、審議は21年度以降に先送りとなり、県と佐渡市が目指していた22年の世界遺産登録は難しくなった。

（関連記事29面に）文化庁は毎年7月下旬ごろに文化審議会世界文化遺産部会を開き、年1枠の国内推薦候補を選んでいる。例年は、同部会に先立って6月〜7月ごろ行われるユネスコの世界遺産委員会で

の最新の議論を踏まえ、審議してきた。

しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で世界遺産委員会の開催のめどが立たず、選定作業に入れない状況が続いている。仮に今後、世界遺産委が開かれたとしても、文化審による国内推薦候補を選ぶ議論や、来年2月1日までにユネスコに推薦書を提出するための作業が間に合わないかと判断した。

文化庁は、21年度は例年通りに選定作業を進めた。

例年の世界文化遺産登録までの流れ

- 6～7月ごろ ユネスコ世界遺産委員会開催
- 7月 文化審議会が推薦候補決定
- 翌年2月1日まで 政府がユネスコに推薦書提出
- 秋ごろ ユネスコ諮問機関が現地調査
- 翌々年5月ごろ 諮問機関が登録の可否を勧告
- 6～7月ごろ 世界遺産委員会が登録審査

い考え。21年度に「佐渡島の金山」が国内候補に選ばれたとしても、世界遺産登録は早くも23年以降になる。

文化庁文化資源活用課は新潟日報社の取材に「他の候補と比べ、佐渡の準備が進んでいるのは間違いない」と評価。「推薦書の磨き上げなどでバックアップしていきたい」としている。

文化庁の決定について、花角英世知事は同日、報道陣に対し「非常に残念だが、より良い推薦書にする時間ができたとも考えられる」と語った。

国内推薦を巡り、佐渡は「初挑戦」の15年度以降、選外が続いている。一方で文化審は佐渡について「有力な推薦候補となり得る」としており、20年度は「最有力」とみられていた。

新型ウイルス